

番 号	主な意見	対 応	
		素案ページ	記 載 内 容
1	そもそも文化芸術に関心がないという人が多い、そこにどうアプローチしていくかというところが課題となる	14 ページ 市民アンケート調査結果の総括について ◆誰もが気軽に参加できる環境づくり	市民アンケート調査の回答者の約半数が、文化芸術活動に「特に関わっていない」、「特に活動していない」と回答しています。 また、 <u>ホールや映画館などで文化芸術分野にかかる「鑑賞をしていない」理由として、「時間的余裕がない」の 35.1%に次いで、「文化活動にあまり関心がない」が 27.3%という結果となっており、文化活動に関心がない人に対するアプローチを検討する必要があります。</u> その他、「施設や場所が近くなかったり、交通の便が悪い」が 9.7%となっており 南部地域におけるイベントやアウトリーチの実施、障がいのある人も含めた誰もが気軽に文化芸術活動を実施し、鑑賞できる環境づくりが重要です。
2	(市民アンケート調査の結果から) 10代は紙メディアよりも口コミ、人からの情報が強い	14 ページ 市民アンケート調査結果の総括について ◆若年層にむけた取組の実施	市民アンケート調査の結果から、10代以下において文化芸術に関心がないと答えた人が多いこと、 市内の文化的資源等の認知度が低いことから、SNSや家族・友人からの口コミを利用した周知と併せて、文化芸術団体や教育委員会と連携し、幼少期から10代にかけて文化的資源や文化芸術活動を知り・ふれる機会を拡充する必要があります。
3	文化芸術に対する関わりを階層分けして、それぞれに対するアプローチ方法を検討するとよい	15 ページ 2. 施策や事業の実施状況について 基本方針(柱1) 現状と課題	一方で、新型コロナの感染拡大により、文化芸術活動を行うことができない期間が長く続いたことから、特に伝統文化・芸能の分野では、後継者不足が一層進み、コロナ禍以前から存在していた担い手不足がさらに深刻化している状況にあります。若年層の伝統文化・芸術分野への参加を促進するため、 <u>文化芸術との関わりの度合いを階層化し、関わり方に応じたアプローチを検討するなど、担い手の育成・確保に向けた取組を一層強化していくことが求められています。</u>
4	文化芸術に対する関わり方として、ボランティアやお手伝いという方法もある	21 ページ 3. 取り組むべき課題について 課題その1 魅力	KADOMA ART FESの実施や、関西フィルハーモニー管弦楽団との連携など、文化芸術に関する取組を進めているものの認知度は低く、イベントを周知しつつ、 <u>作る・見る・支援するという側面から参加を促し、イベントの魅力を向上させる必要があります。</u>

番 号	主な意見	対 応	
		素案ページ	記 載 内 容
5	文化芸術のハードルを下げるということを再考したほうがよい	21 ページ 3. 取り組むべき課題について 課題その1 魅力	<p>【課題その1 魅力】 (修正前) KADOMA ART FESの実施や、関西フィルハーモニー管弦楽団との連携など、<u>新たな文化芸術に関する取組を進めています。文化芸術に関するハードルを下げ、誰もが参加しやすい環境づくりを推進する必要がある。</u></p> <p>(修正後) KADOMA ART FESの実施や、関西フィルハーモニー管弦楽団との連携など、<u>文化芸術に関する取組を進めているものの認知度は低く、イベントを周知しつつ、作る・見る・支援するという側面から参加を促し、イベントの魅力を向上させる必要があります。</u></p>
6	伝統文化における担い手・人材不足にかかる課題について触れたほうがよい	21 ページ 3. 取り組むべき課題について 課題その3 交流	<p>【課題その3 交流】 (修正前) 市民アンケート調査結果では、10代以下において文化芸術に対する関心が低い状態であることがわかりました。<u>既に実施している中学生音楽会や若年層に対するアウトリーチなど幼少期から文化に触れる機会を拡充するとともに、長期的にはアートマネジメント人材（文化の作り手と受け手つなぐ役割を担う人材）の育成が必要である。</u></p> <p>(修正後) 市民アンケート調査結果では、10代以下において文化芸術に対する関心が低い状態であることがわかりました。<u>中学生音楽会やアウトリーチなどの子どもたちが文化に触れる機会を引き続き確保するとともに、地域の伝統文化に触れる機会を創出し、まず文化芸術そのものに興味を持ってもらい、実際に活動に参加してもらえそうな仕組みづくりが必要です。</u></p>
		25 ページ 2. 具体的な取組の例 基本方針（柱1） 地域の文化活動の支援	<p>具体的な取組の例</p> <ul style="list-style-type: none"> ● ふるさと門真まつりなど地域の伝統的な行事の開催に向けた支援 ● 市ホームページや広報紙等を通じた文化財や地域の伝統芸能（ひんや節やだんじりなど）の魅力発信や普及啓発の展開

番 号	主な意見	対 応	
		素案ページ	記 載 内 容
7	広報かどま、市公式 LINE の活用して、同一のテーマを継続して掲載する（アーティストや文学など）	25 ページ 2. 具体的な取組の例 基本方針（柱 1） 地域の文化活動の支援	具体的な取組の例 ● 市ホームページや広報紙等を通じた文化財や地域の伝統芸能（ひんや節やだんじりなど）の魅力発信や普及啓発の展開
8	教育委員会との連携（10 代以下に対する文化芸術の充実）	25 ページ 2. 具体的な取組の例 基本方針（柱 1） 学校教育での文化芸術活動の推進	具体的な取組の例 ● 学校における文化芸術教育の充実 ● 学校支援団体と連携した昔遊び・伝承遊びなどのイベントの実施 ● 関西フィルハーモニー管弦楽団のほか、新たなアウトリーチ活動の実施
9	文化的なものを支える層として高齢者と女性の方が中心となる	—	次回の計画改定時に、ご意見を踏まえて方針、施策等を検討